

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

免許状更新講習

～生徒指導・学級経営に活かす体験活動～

平成26年8月20日(水)～8月22日(金)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成26年8月20日(水)～8月22日(金) 2泊3日

各回 小学校教諭(中学校教諭も受講可)各40名

(2) 参加者

37名(岡山県29名 広島県4名 大阪府2名 兵庫県1名 宮城県1名)

(3) 内容

①講義：「体験活動の意義と学習指導要領」

内容：子どもの現状を踏まえ体験活動の必要性と教育効果、また、教育課程における「体験活動」の位置づけに関する講義

指導：文部科学省 初等中等教育局 視学官 杉田 洋 氏

②講義・実習：「体験活動の導入とその指導法」

内容：ねらいに応じた体験活動の計画の仕方や指導のポイントを理解する講義・実習

指導：国立吉備青少年自然の家 次長

③実習：「カッター活動の教育効果と実習」

内容：吉備のフィールドを利用した体験活動や教科での学習を通して、子ども同士の関係を深めるための指導法を学ぶ実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

④講義：「子どもの現状と課題」

内容：子どもをとりまく現状から、現在の教員が期待されていることに関する講義

講師：岡山大学大学院 准教授 藤原 敬三 氏



【体験活動の意義と学習指導要領】



【仲間づくりゲーム】



【カッター活動の教育効果と実習】



【子どもの現状と課題】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】



【ふりかえりの発表】

4. 成果・課題

(1) 参加者の声

事業全体をとおしてはどうでしたか。

満足度 … 100%

満足 (31名), やや満足 (6名), やや不満 (0名), 不満 (0名)

(2) 成果

- 体験活動サイクルを意識した構成とし、グループの成長過程を感じながら、集団を高めていく体験活動のプログラム構成がとても重要であることを実際に体験させることができた。
- 「体験活動の意義と学習指導要領」の講義では、小学校の特別活動に位置づいた体験活動を取り入れた事例を多く紹介していただくことで、「体験活動」の有効性や学習指導要領での位置づけを理解させることができた。
- ビーイングを活用し、活動ごとに話し合いによる活動の振り返りの時間を設けることで、プログラムや活動を企画する際にねらいや話し合いが重要であることを実感させることができた。
- 8月の実施のため、参加者の疲労を考えた時間配分や水分補給の準備など熱中症対策を行い、参加者は、体調を崩すことなく講習を修了することができた。

(3) 課題

- グループの成長過程を感じながら、集団を高めていく体験活動のプログラム構成がとても重要であることを実際に体験してもらえたが、他グループの方との交流も深めたかったという意見をいただいた。参加者全員で高まる場面も設定していきたい。

担当：企画指導専門職 飯石 浩二